

ひらつかの年中行事 ①

大山灯笼

相州大山。平塚市の平野からは、立派な山容の大山を仰ぎ見ることができます。古来、人は里から見える形の良い山に神性を感じ、信仰の対象として崇めてきました。高麗山も同様に信仰の対象とされた山です。

大山に寄せる人々の思いは様々です。平塚市周辺で特徴的なのは、百一日参りと大山灯笼の習俗です。百一日参りとは、肉親の死後101日目に大山の茶湯寺（ちゃとうでら）へ行き、死者が無事に成仏したお礼参りをする事です。この日に大山へ行くと、亡き人とよく似た人に出会えると言われ、伝えられています。大山は死者の魂が籠もる山であることをうかがわせる習俗といえます。百一日参りは、平塚市から相模原市あたりにかけ、大山の東南麓に濃密に分布しています。



上吉沢台の大山灯笼



大山灯笼の献灯(上吉沢台)

大山灯笼とは、大山の夏山開山期間に大山へ向けて灯笼を立て、毎晩灯をともし習俗です。かつては市内の各地で行われ、現在も9ヵ所ほどで続けられています。場所は、上平塚、豊田本郷の西町、大島の枝大島、小鍋島の城東、城所の岡の根、上吉沢の台と山の神と飛谷津、土屋の遠藤原などで、それぞれ集落単位で道の辻に立てます。期間は、上吉沢は7月28日～8月28日、他所は7月後半から8月15日まで立てます。だいたい

大山の夏山開山期間（7月27日～8月17日）に合わせて立てられるといえます。

多くは木製の灯笼で、和紙の火袋に「阿夫利神社」「不動明王」「五穀豊穰」「村内安全」などの文字が記されます。毎晩薄暗くなる頃に灯をともします。上吉沢の台と山の神は、当番札とローソクが回ってきて、家並みの順でローソクに点火しています。近年は火災防止の意味もあって、火袋をガラス板に変え、ローソクを電球に変えた所もあります。また、土屋の遠藤原では「正」不動大明王〈左〉石尊大権現〈裏〉大天狗小天狗〈右〉嘉永四



灯笼納めの日(上吉沢台)



土屋遠藤原の大山灯笼

辛亥八月吉日」と刻む石灯笼にローソクを点灯しています。大山灯笼は、「大山の導者のために夜道を照らす」目的で立てられたと言われます。それに、阿夫利神社と不動明王へ献灯する気持も伴われていることでしょう。原初的には、お盆に大山へ集まる祖先の霊に捧げたのかもしれない。大山灯笼の習俗は、丹沢山麓でも平塚市域に最も多く残されているようです。夏の夜、夕涼みがてら大山灯笼をひとつひとつ訪ね歩いてみてはいかがでしょうか。夜道をローソクの柔らかい光が照らす様子はとても風情があります。

(平塚市博物館学芸担当)

わたしがえらんだ いわさきちひろ展



立てひざの少年

開催期日 平成21年7月18日(土)～平成21年8月30日(日)

会場 平塚市美術館

開館時間 9:30～18:00(入場は17:30まで)

※本展については開館時間を1時間延長

休館日 毎週月曜日※ただし7月20日(月・祝)は開館し、翌日は休館

観覧料 一般800(640)円、高大生600(480)円

※()内は20名以上の団体料金 ※平塚市民で、60歳以上の方、

身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けた方と付添1名は無料

お問合せ先 0463-35-2111

●展覧会内容●

日本を代表する絵本画家として多くの人々に親しまれている、いわさきちひろの代表作120点、ピエソグラフ(高密度複製画)作品8点、貴重な遺品・書籍等を厳選して展示します。

平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご協力いただいた方(敬称略)(平成21年2月から平成21年4月)

■湘南ステーションビル平塚店名店会(1.28) ■しんわ本人自治会連合会(2.24) ■湘南ステーションビル株式会社(2.25)



発行//平塚市(文化・交流課) ●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください(今後の参考とさせていただきます) →ご意見等はEメールで(E-mail //bunkoh@city.hiratsuka.lg.jp)